

リト信スル旨ヲ陳ブルニ止メタリ國務長官ハ尚ホ語ヲ継ギテ憲法ノ解釈ハ別問題トシテ加州問題ノ善後方法ニ對シテハ自分ニ於テ十分講究ヲ重ヌヘキニ付本使ニ於テモ熟慮ノ上何等成案アラハ非公式ニ相互ノ意見ヲ交換シタキ旨極メテ打解ケタル態度ヲ以テ懇話サレタルヲ以テ本使ハ本件ニ就テハ多少腹案ナキニアラサルヲ以テ尚熟考ノ上異日或ハ具体的ニ私見ヲ開陳スル機會アル哉モ難計旨ヲ答ヘ置キタリ夫レヨリ余談トシテ協約案撤回ノ事ニ談及シタルヲ以テ本使ハ試ニ米國政府ニ於テ遺産相続ニ關スル條項ノ刪除ヲ主張シタル結果同案ヲシテ加州問題ト全然沒交渉ノ空文ト化セシメタルハ遺憾ニ堪ヘズトノ意ヲ述ヘタルニ同長官ハ該條項ノ存置ハ上院通過ノ見込ヲシテ益薄弱ナラシムルノ虞アリシヲ以テ可成丈同案ノ成立ヲ図ルノ精神ヨリ其刪除ヲ主張シタル次第ニシテ要スルニ所謂 The line of the least resistance ヲ選ムノ必要ヲ感シタルガ為ナリト説明セラレタリ

右會談ニ關シ本使ノ會得シタル感想中特ニ留意ヲ要スヘキモノト認メタル点ヲ左ニ列記シ閣下御參考ノ料ニ供ス一、我抗議書ヲ熟閱シタル後國務長官ノ態度及辭氣ニ由テ

タルヲ免カレス右ハ多分國務長官ニ於テハ前回交渉ノ行縣ニ心付カス全ク一時疎虞ノ結果ニ外ナラサルヘシト察セラルルモ万一前回交渉ノ際彼ニ於テ只管我反對ヲ防カムトノ目的ヨリ實際大統領ノ真意以上ニ強硬ノ態度ヲ裝ヒタル内情アリタリトセハ本條項ニ對スル大統領ノ反對ハ主義ノ問題ニ非シテ全ク權宜ノ問題ナルヲ以テ爾來事情ノ變化ニ顧ミ必スシモ再考ヲ求ムルノ余地ナキ問題ト看做スヲ要セス此点ハ加州問題ノ善後策ニ關スル我方針ニ影響スヘキモノナルカ故特ニ注意シテ事ノ真相ヲ明カニスル樣適當ノ方法ヲ講スヘシ

右報告旁申進候 敬具

追而加州土地法問題ニ關スル公文、談話等ハ特ニ急ヲ要スト認メラルル場合ノ外將來共總テ郵報ニ委ス可キニ付右御承認相成度為念申添候

七七 十二月二日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

第四回抗議提出ノ事實ハ議會ニ於テ言及スル
コトアルベキ旨國務長官ヘ申入方ノ件

第三三一號

一 米國加州ノ外國人土地法及土地問題ニ關スル日米協約締結交渉關係(五) 七七(六) 七八

九九

觀ルニ同書翰ノ上ニ表ハレタル帝國政府ノ態度ニ對シ同長官ハ予想以上ノ好感情ヲ以テ之ヲ迎ヘタルカ如ク察セラレタリ大統領ノ電信引用ニ關スル所言ノ如キモ寧ろ諧謔的ノ語調ヲ用ヒ強チ不滿ヲ漏ラシタルモノトモ認メラレス要スルニ我抗議書ハ頗ル良好ノ印象ヲ与ヘタル樣ニ看取シタリ

二、條約ノ効力ト既定州法トノ關係ニ就テハ國務長官ハ頗ル詳細ニ其意見ヲ反覆シタルモ終始断定的ノ明言ヲ避ケ「大疑問ナリ」トカ又ハ「大々的疑問ナリ」等ノ語辭ヲ用ヒ力メテ余地ヲ存スル樣用心ノ跡アリタルハ多少注意ニ価ヒスヘキ点ナリト思考ス

三、協約案中遺産相続ニ關スル條項ノ刪除ヲ主張シタル理由ニ就テハ國務長官今回ノ説明ト交渉當時ノ説明トノ間ニ五ニ衝突ノ点アルヲ認ム當時國務長官ノ所說ニ拠レハ大統領ニ於テハ飽クマテ條約ニ由テ既定州法ノ効力ヲ抹殺スルノ非違ヲ主張シ本項ヲ刪除セサルニ於テハ仮令上院ノ同意ヲ得ルモ之ヲ裁可ヲ拒ムヘシト迄断言シタル由ナリシニ反シ今回ノ説明ニ拠レハ右ハ上院ノ反對ヲ避クルノ目的ニ出テタルモノノ如ク結局前後兩立セサル説明

十一月二十五日手交ノ抗議内容ハ六月二十三日付國務長官來翰ト共ニ他日打合ノ上發表スルコトナルベキモ右抗議提出ノ事實ノミハ自然議會ニ於ケル答弁ノ際言及スルノ必要生スヘキニ付予メ國務長官ノ承知ヲ乞フ旨為念申入レラレタシ

六 米國ノ排日行動予防ノ為ノ協約締結問題

七八 十月十三日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國ノ排日行動予防ノ為ノ新協約締結ニ關シ
意見稟申ノ件

第三六〇號

往電第三五九號ニ關シ曩ニ帝國政府ニ於テ協約案ヲ撤回シタル重ナル理由ハ同協約ノ為加州問題ニ對スル我從來ノ主張ヲ拋棄スルコト能ハサル点ニ歸著スル義ト了解セラルル所若シ該案ニ多少改竄ヲ加ヘ協約案トハ全然沒交渉ニシテ專ラ將來ノ排日行動ヲ予防スルノ趣意ニ出デタル獨立案トナシ幸ニ其締結ヲ見ルヲ得ハ將來排日案再燃ノ為益々時局

ヲ紛糾セシムルノ虞ナク徐ニ協約案ノ解決ヲ講シ得ベキカ故ニ我ニ取り其利益ナルコト言ヲ要セサル所ナリ就テハ帝國政府ニ於テ愈平^(註)和条約締結ノ御方針ニ決セラルル場合ニ於テ之ト交換ノ意味ニテ右協約案締結方提議シテハ如何右ハ成功ノ見込頗ル薄弱ナルモ万一ノ僥倖ヲ期シテ之ヲ試ムル価値アル問題ナリト思ハルルノミナラス本使ノ私見トシテ先ツ國務長官ノ意嚮ヲ探ル時ハ其結果ノ如何ニ拘ラス累ヲ本条約商議ニ及ホス憂ナカルヘシ右ニ關シ何分ノ義御内訓相成リタシ

註 此処ニ謂ハユル平和条約ナルモノニ付テハ後掲二二一文書ノ註一参照

七九 十月十四日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ノ排日行動予防ノ為ノ新協約案ノ大要提
示アリタキ件

第二七八号

貴電第三六〇号ニ關シ旧協約案トハ何等ノ關係ナク專ラ排日行動ヲ予防スルノ趣意ニ出テタル新協約案果シテ兩國間ニ成立スルヲ得ルモノトセハ我ニ取り大体ニ於テ利益タル

コト論ヲ須タサルヘシ就テハ帝國政府ニ於テ愈平和条約ノ締結ヲ決行スルヤ否ヤハ姑ク別問題トシ先以テ右新協約案ノ大要ヲ本大臣ノ参考トシテ御示相成リタシ

八〇 十月十六日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

米國ノ排日行動予防ノ為ノ新協約案ノ大要二
付回報ノ件

第三六四号

貴電第二七八号ニ關シ協約ノ基礎トシテハ本年一月二十三日國務長官ニ手交シタル最終案(同日附往電第二〇号参照)ノ第三条ヲ削除シテ其内容ヲ一層具體的ニ書改メ加州土地法問題ノ交渉ハ依然之ヲ繼續スルノ意志ナルコト竝本協約ハ日米双方ノ現行法及双方ノ臣民又ハ人民ガ現ニ有スル所ノ權利及特典ニハ何等影響ヲ及ホサルモノナルコトヲ協約締結ト同時ニ文書交換ノ方法ニ依リ取極メ置キ爾余ノ条項ハ旧案ヲ踏襲スルコトニ致シタシ先方ニ於テ第三条ヲ文書交換ニ讓ルコトヲ欲セスシテ之ヲ協約中ニ明記シ置カンコトヲ主張スル場合ニハ同条末段 would have had 以下ノ字句ヲ削リ之ヲ have in the territories of the other

under the Treaty between Japan and the United States signed February 21 1911 ト改メ前記加州土地法問題交渉

ニ關スル事項又ヲ文書交換ヲ以テ知照シ置クコト、為シ且右ノ場合ニ於テハ第三条ト第四条トノ位置ヲ轉換スルコトニ致シタシ前記第三条字句ノ修正ハ旧案ノ方ハ含蓄広クシテ有利ナルカ如クナルモ同案提出ノ際本使ガ其適用範圍ニ關シ國務長官ニ与ヘタル照會書ニ鑑ミ(本年一月二十三日往電第二〇号参照)此際字句修正ノ有要ヲ感スルノミナラス修正字句ハ本条ノ趣旨ヲ一層明確ナラシムルノ利益アリト信スル為ナリ又第三条ト第四条トノ轉換ハ帰化ノ意志表示者ハ本条約均霑ノ目的タルヘキヤ否ヤノ問題ニ關シ我ニ有利ノ解釈ヲ得シカ為ニハ現行法律ヲ除外スル方得策ナルヘシト思考シタルニ外ナラス(本年二月六日牧野大臣來電第四九号及二月二十八日往電第七二号参照)

- 註 1 前掲一九文書
2 同 三〇文書
3 同 三五文書

八一 十月二十六日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

新協約案大体ノ構想ニ關シ米國政府ノ意向ヲ
懇談的ニ打診方ノ件

第二九〇号

貴電第三六四号ニ關シ協約案内容ニ於テ最惠國民待遇ノ意義ヲ更ニ明確ニスルコト乃チ帰化權ヲ有スル外國人若クハ帰化ノ意志ヲ表示スル外國人ト最惠國民トノ關係ニ就キ更ニ精密的確ナル規定ヲ設ケ如何ナル場合ニ於テモ帰化權ニ關スル法律上ノ解釈如何ニヨリ日本人ノ權利ニ動搖ヲ來スノ虞ナキ又ノ用意ヲナシ置クコト必要ナリヤ否ヤ又文書ノ交換云々ノ件ニツイテモ単ニ「ノート」ノ交換ニ止メズ条約ノ一部タル議定書トナシ我地地位ヲ確保スルコトノ必要ノ有無等協約案提出前仔細ニ研究スヘキ点アルカ如キモ今日ノ場合は等ノ研究ハ姑ク之ヲ他日ニ譲リ先ツ大体ニ於テ米國政府カスカル考案ニ耳ヲ傾クルヤ否ヤヲ知ルコト順序ト思考セラル、ニツキ貴官ハ國務長官ニ對シ全然貴官一己ノ意見トシテ協約案ノ大体ヲ述ヘ米國政府ニ於テ此ノ如キ協約ヲ締結スルノ意アリヤ否ヤヲ懇談的ニ尋ネ何分電報セラハベシ仲裁條約ノ件ニ關シテハ政府ニ於テ尚ホ研究ヲ要スル点多々有之未タ該條約訂結ニツキ何等申進スル場合ニ立

至ラサルニツキ右御含ノ上本件可然御対応相成ル様イタシ
タシ

八二 十月二十八日 在米國珍田大使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新協約案ハ日米平和条約締結ト交換の二提議
シ度キニ付右締結方針回示方請訓ノ件

第三七八号

貴電第二九〇号ニ関シ協約案ハ往電第三六〇号中ニ具申シ
タル通本使限リノ思付トシテ其筋ニ内話ヲ試ミ米國政府ニ
於テ好意ヲ以テ之ヲ考慮セラルルニ於テハ同政府ノ提議ニ
係ル日米平和条約締結ヲ帝國政府ニ於テ考慮スル上ニ於テ
好都合ナリト信スルヲ以テ本使ハ本國政府ニ對シ協約ト交
換ノ意味ニ於テ日米平和条約締結ノ議ヲ上申スヘキ旨ヲ述
ヘテ相談ノ端緒ヲ啓キタキ希望ニ付日米平和条約ニ関スル
御方針御決定次第御回示相成タシ協約案ノ方ハ其上ニ致シ
タシ

註 前掲七八文書ノ註参照

八三 十月三十日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

報アリタシ

(附記)

大正四年一月十七日珍田大使發加藤外務大臣宛電報

新協約案ニ関シ國務長官ト会谈ノ件

第一〇号

貴電第三〇〇号ニ関シ一月八日及一月十五日ヲ以テ國務長
官ト会见ヲ重ネ大体往電第三六四号ノ趣ニ遵ヒ懇談ヲ試ミ
タル要領左ノ如シ國務長官ハ第一ニ上院ニ於テ目下重要法
案堆積シ「コロムビヤ」及「ニカラグア」兩条約モ其緊急
且ツ事理明白ナルニ拘ラス未タ批准セサル折柄今会期中
(三月四日迄)協約ノ件ヲ附議スルコトハ實際殆ント不可能
ナルノミナラス次期上院ニハ民主党多少増員ヲ見ルノ利益
モアリ旁々之ヲ次期議會ニ附スル外ナカルヘシトノ意見ヲ
述ヘ次ニ協約案ハ加州問題ノ解決ニ關係ナシトノ理由ニ依
リ上院ニ於テ協賛ヲ否ム虞アリトテ加州問題ハ裁判ニ訴ヘ
テ之ヲ解決スヘシトノ一条ヲ加フル必要ヲ説キタルニ付本
使ハ裁判ニ依ル解決ハ我政府ノ初ヨリ容レサル所ナル事實
ヲ指摘シ差当リ考案トシテ該問題ハ仲裁裁判ニ附スルカ若
クハ協約ト同時締結セラルヘキ平和条約ニ予想セル審査ニ

米國ノ排日行動予防ノ為ノ新協約案ノ内容ヲ
國務長官ニ内告方ニ関シ回訓ノ件

第三〇〇号

貴電第三七八号ニ関シ平和条約ニツイテハ尚研究ヲ要スル
諸点アリテ政府ノ方針決定迄ニハ相当ノ時日ヲ要スヘキニ
ツキ兎ニ角貴官一個ノ思付トシテ先ツ仮定のニ協約案ノ内
容ヲ國務長官ニ告ケ自然米國政府ニ於テ平和条約ト同時ニ
斯カル協約ヲ訂結スルノ考案ニ耳ヲ傾ケラル、ニ於テハ改
メテ本國政府ヘ稟申及フヘキ旨ヲ述ヘラレ先方ノ態度電報
アレ

八四 十一月二十五日 加藤外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國ノ排日行動予防ノ為ノ新協約案ノ成行ニ
関シ問合ノ件

附記 大正四年一月十七日在米國珍田大使發加藤外務

大臣宛電報第一〇号

新協約案ニ関シ國務長官ト会谈ノ件

第三二九号

往電第三〇〇号ノ件、既ニ開談セラレタリトセハ其成行電

附スヘシトノ趣意ニテハ如何ト試問シタルニ長官ハ前者ニ
對シテハ主權ニ関スル問題ナルヲ以テ仲裁裁判ニ附スルハ
断然不可能ナリト明言シ後者ニ對シテハ断然タル反對ヲ明
言セサルモ之ヲ以テ満足セサル様子ニテ暫時熟考ノ後自分
ニ於テハ遺産相続權ヲ認ムルノ条項ヲ復活スルヲ以テ解決
ノ一方法ナリト思考スルモ此点ニ付テハ第一ニ大統領ノ承
認ヲ得ルノ必要アルヲ以テ兎ニ角右ニ関シ大統領ノ意嚮ヲ
確メタル上更ニ相談スヘシ但シ其承認ヲ得ルコト頗ル困難
ナリト按セラルルヲ以テ此点ハ堅ク貴官一個ノ内聞ニ止メ
貴政府ニ對シテモ決シテ報告無之様切望スト述ヘラレタリ
右長官ノ腹案カ大統領ノ同意ヲ博スルノ望ミ極メテ薄弱ナ
リト信スルモ万一前説ヲ再興シ(大正三年十一月二十八日
附機密第五五号拙信参照)該条項ノ復活ヲ見ル場合ニ於テ
ハ帝國政府ハ之ニ満足シ加州問題ノ解決法トシテ協約ヲ締
結セラルヘキ御内意ナルヤ本官心得ノ為メ至急御回示ヲ請
フ又協約ヲ上院ニ附議スル時機ニ関スル長官ノ意見ノ通次
期通常議會(十二月)ヲ待ツハ余リニ遷延ニ亘ルヲ以テ大
體纏議ノ上此点ニ付更ニ懇談スヘク且ツ臨時議會召集ノ噂
モアルニ付本件ノ商議ハ可成速ニ進メ置キ度希望ナリ